

平成26年度 第1回 日本海スルメイカ長期漁況予報

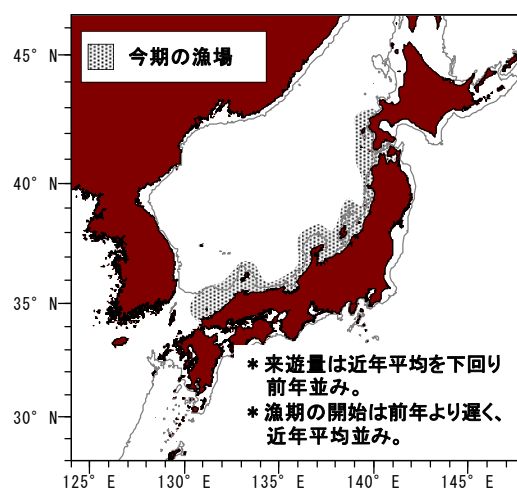
— 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成26年5月～7月)のポイント

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均を下回り、前年並み。
- (2) 漁期・漁場：漁期の開始は前年より遅く、近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：前年および近年平均並み。

* 近年は最近5年間(平成21年～平成25年)



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 梶脇、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

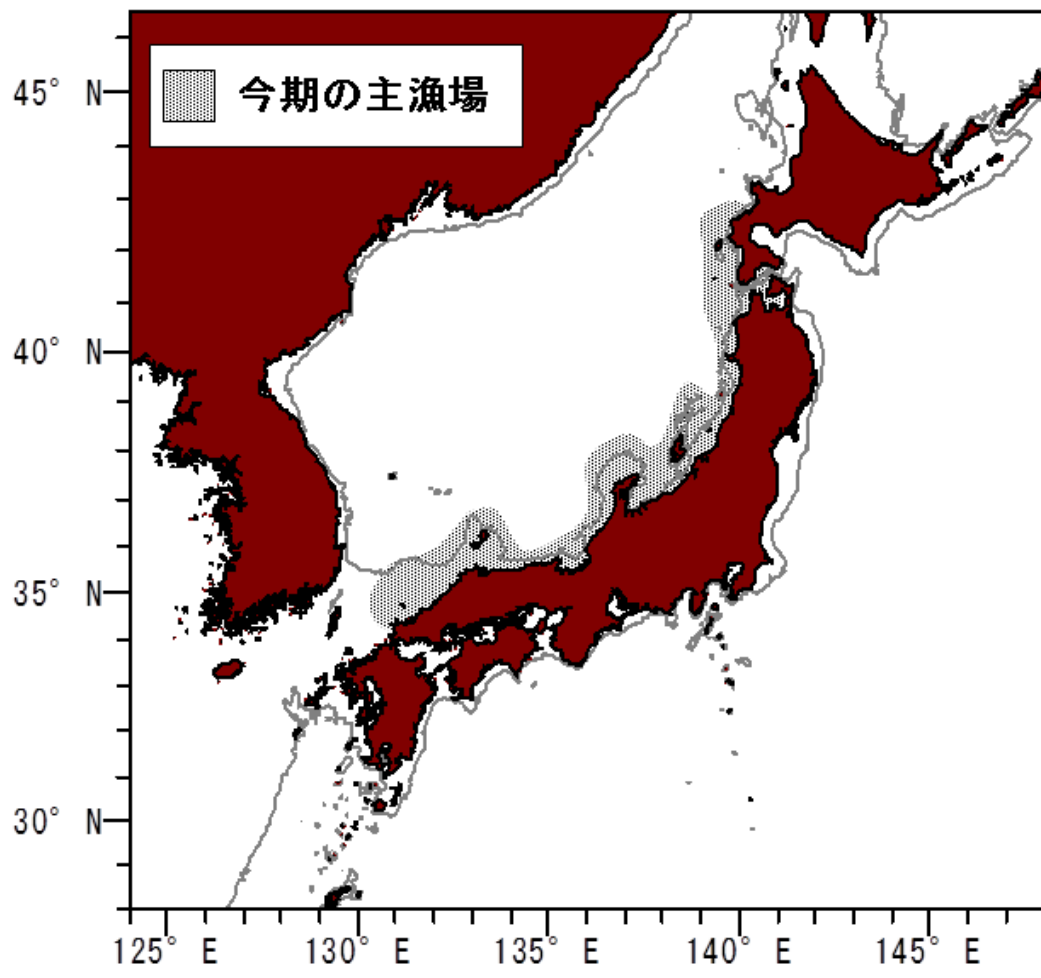
担当：関根、檜山

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



平成26年度 第1回 日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2014年5月～7月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均を下回り、前年並み。
- (2) 漁期・漁場：漁期の開始は前年より遅く、近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：前年および近年平均並み。

* 近年は最近5年間(2009年～2013年)

I 漁況予報

日本海におけるスルメイカの資源調査結果（2013年10月～11月の日本海スルメイカ稚仔分布調査、および2014年4月のスルメイカ新規加入量調査）と海洋環境予測、および今年の漁況の経過を主要な情報として、今期（2014年5月～7月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予測した。

【予測】

今期（2014年5月～7月）の日本海沿岸域へのスルメイカ来遊量は近年平均を下回り、前年並みと予測される。漁期の開始は前年より遅く、近年平均並みと予想される。魚体の大きさは前年および近年平均並み。

【情報】

- (1) 2014年4月に実施したスルメイカ新規加入量の調査結果では、今期に漁獲加入すると予想される外套背長5cm以上のスルメイカの分布量は近年平均を下回ったものの、前年並みであった。
- (2) 2013年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査では、幼生の分布密度が前年および近年平均を下回った。
- (3) 2014年4月中旬の日本海における表面水温はほぼ平年並みであり、4月～6月の対馬暖流域の表面水温も「平年並み」、水深50mの水温も「平年並み」で推移すると予測されている。
- (4) 2014年3月の漁獲量は、西部日本海では近年平均を上回ったものの、本州北部では近年平均を下回った。

II 説明

1. 調査結果

1) 4月におけるスルメイカの分布状況

いか釣り漁業では外套背長15cm以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、いか釣り漁業で漁獲される前のスルメイカ（主に外套背長2cm～10cm）の分布状況を事前に把握することで、その後の漁況を予測することが可能になる。なお、本調査で採集されたスルメイカのうち、外套背長5cm以上のサイズが今期（5月～7月）の漁獲対象になると想定される。

2014年の日本海での主漁期前（4月）に実施した新規加入量調査^{*1}結果（図1）では、若狭湾や隠岐諸島沖で外套背長5cm未満のスルメイカが採集され、佐渡から能登半島沖では外套背長5cm以上のスルメイカが採集された。1調査点あたりの平均採集尾数は15.5尾であり、近年平均（49.3尾）および前年（49.6尾）を下回った。なお、今期（5月～7月）の漁獲対象になる外套背長5cm以上の平均採集尾数（8.8尾）は近年平均（12.5尾）を下回ったものの、前年（8.0尾）と同様であった（図2）。

*1) 新規加入量調査：口径10m～12mの表層トロール網を用いた採集調査。各調査点で3ノットの速度で30分間曳網して実施。

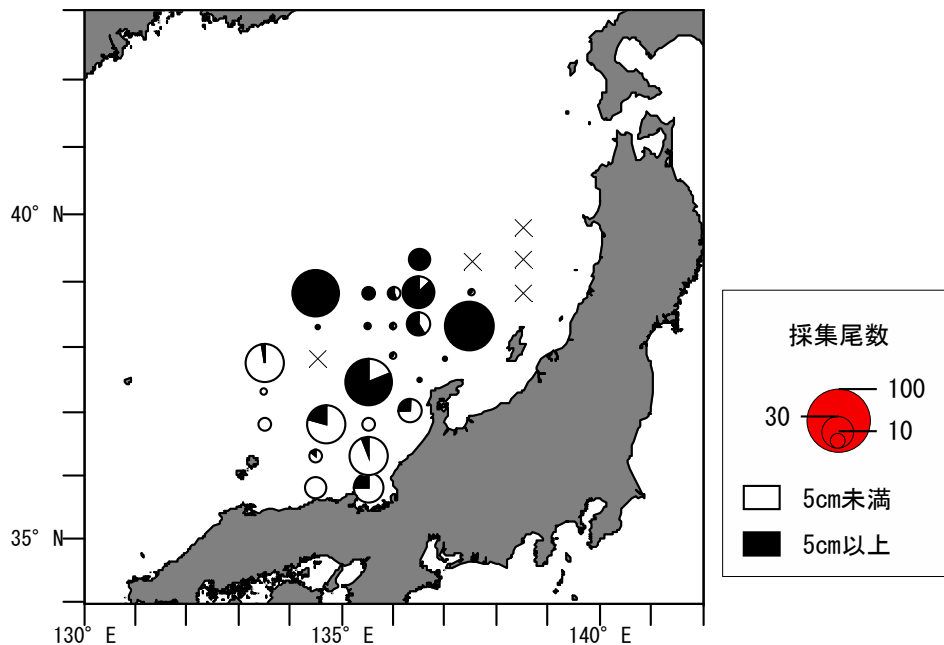


図1 2014年4月の表層トロールによるスルメイカの採集調査結果
（○の面積は採集尾数、×は採集されなかった調査点）。

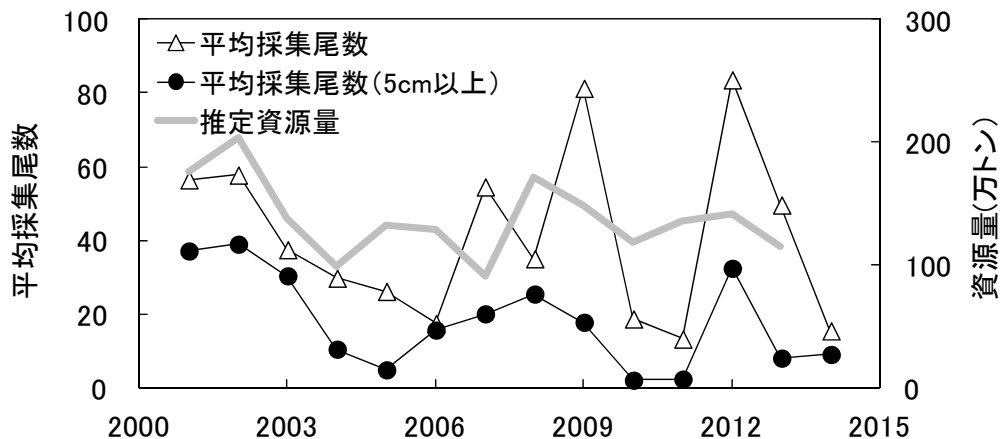


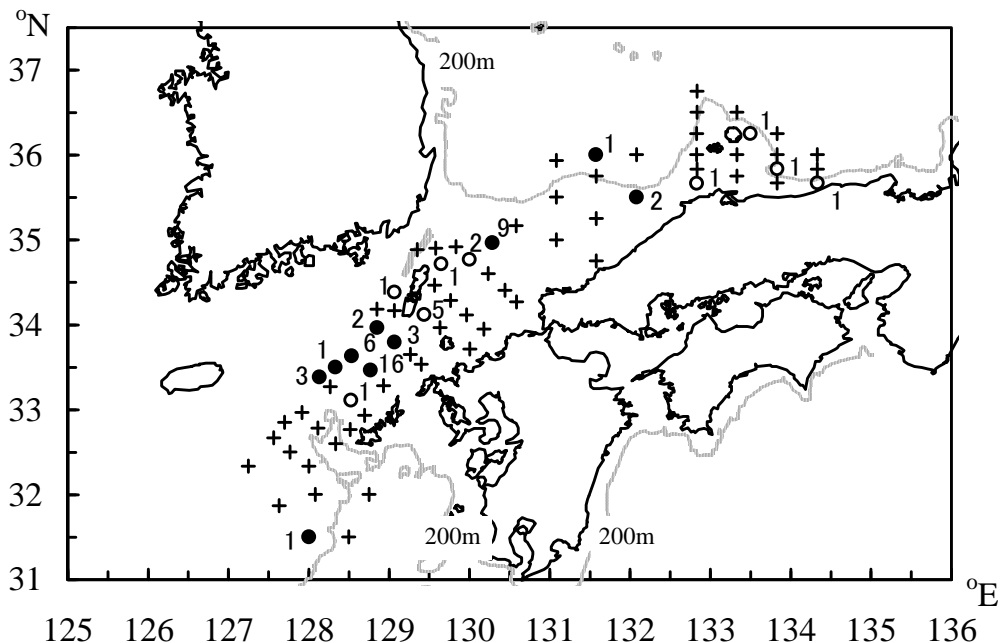
図2 表層トロール調査による平均採集尾数と推定資源量の経年変化
推定資源量は、前年度におけるスルメイカ秋季発生系群の資源評価調査結果の値。

2) 前年秋のスルメイカ幼生の分布量

5月下旬～10月の日本海では、前年の秋～冬に生まれたスルメイカ秋季発生系群が漁獲される。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は、スルメイカ秋季発生系群の親魚量（獲り残し量）の指標値になる。

2013年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査^{*2}では、隠岐諸島から対馬海峡付近の広い海域で幼生が採集され（図3）、1調査点あたりの平均採集尾数は0.86尾であった。この値は2012年の調査結果（1.10尾）および近年（2008年～2012年）平均（1.02尾）を下回った（図4）。

*2) 幼生の分布調査：口径45cmのプランクトンネット（網目0.33mm）を用いた採集調査。各調査点で水深150mまでの鉛直曳によって主に外套背長1～3mmのスルメイカ幼生を採集する。



孵化直後のスルメイカ幼生(外套背長約1mm)

図3 2013年10月～11月におけるスルメイカ幼生の分布調査結果

○幼生が採集された調査点、●孵化直後の幼生が採集された調査点、+幼生が採集されなかった調査点、
図中の数字は各調査点における採集尾数。

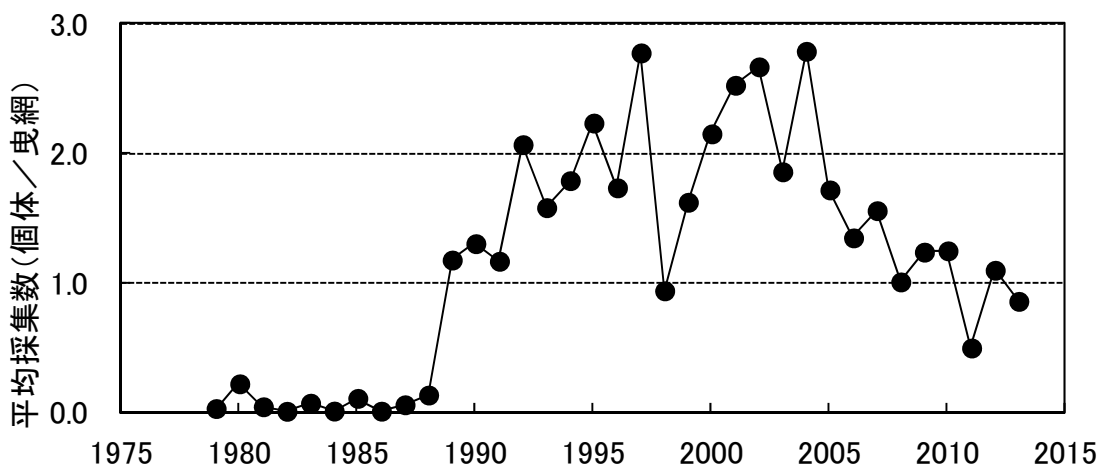


図4 スルメイカ幼生の1調査点あたりの平均採集尾数の経年変化

2. 日本海における海洋環境

平成26年度第1回日本海海況予報^{*3)}によると、対馬暖流域における4月～6月の表面水温および水深50mの水温は平年並みで経過すると予測されている。したがって、スルメイカ漁期の開始時期は前年よりも遅く、近年平均並みと予測される。

*3) <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr26/20140407/20140407.pdf>

3. 日本海におけるスルメイカ漁況の経過

日本海では、1月～3月上旬は前年の冬に生まれたスルメイカ（冬季発生系群）が主に漁獲され、3月中旬～4月は前年の春～夏に生まれたスルメイカ、5月以降は前年の秋に生まれたスルメイカ（秋季発生系群）が漁獲の中心となる。

前年の予報対象期間（2013年5月～7月）は、漁期の開始が早く、本州北部では5月の漁獲量が近年平均を上回った。しかし、魚群の北上速度が速く、6月および7月の漁獲量は近年平均を下回った。道南・津軽では6月および7月の漁獲量がほぼ近年平均並みであったものの、道北・道央における7月の漁獲量は近年平均を大きく下回った。その後（2013年8月～12月）における道南・津軽および道北・道央の漁獲量は、ほぼ近年平均並みで推移した。

2014年の経過として、本州北部では前年12月～1月の漁獲量が近年平均を上回ったものの、2月～3月の漁獲量は近年平均を下回った。西部日本海では2月の漁獲量が近年平均を下回ったものの、3月は近年平均を上回った。

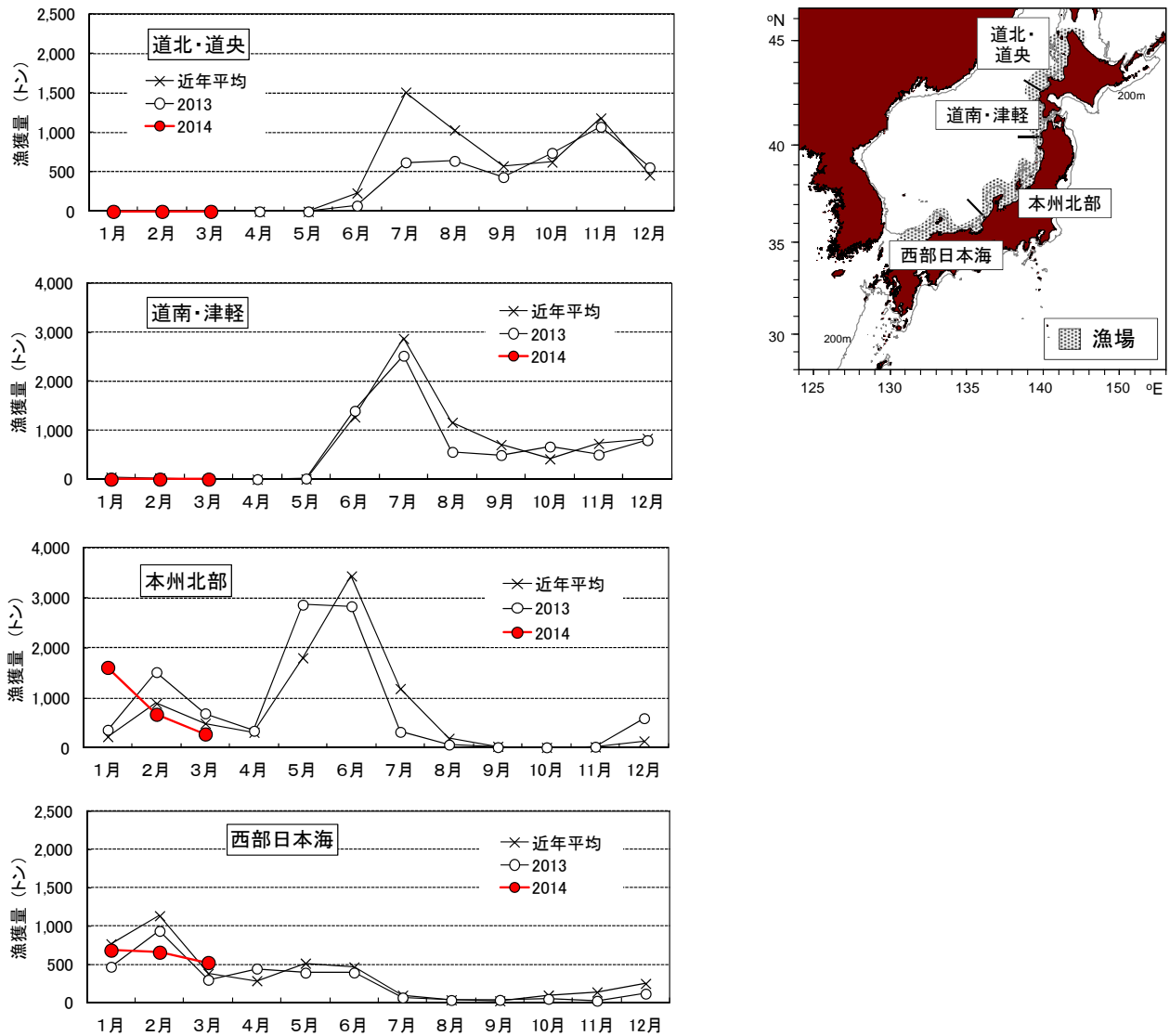


図5 日本海各地における漁獲量の経過（近年平均、2013年および2014年）

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 函館水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	長崎県総合水産試験場
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
福井県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
	(取りまとめ機関)
	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所